

第一回学問の鍋学際セミナー

共催：京都大学未来創成学国際研究ユニット
京都大学基礎物理学研究所 パナソニック国際ホール (1F)

2017年1月14,15日(土,日)13:00~18:00(両日)

タイムテーブル

1月14日(土)

12:30~13:00 会場

13:00~14:30 社会構想の原理をさぐる-見田宗介を手がかりに-

14:45~16:45 未来創成学の展望 (特別講演)

17:00~18:00 懇親会

1月15日(日)

12:30~13:00 会場

13:00~14:30 イスラームの神学論争とイスラーム哲学

14:45~15:45 曲面上の点渦力学-形と渦の不思議な相互作用-

16:00~17:30 学問の行く先 (ディスカッション)

未来創成学の展望

伝統科学として、心理学、哲学、工学、医学、数学、社会学、経済学、政治学、生物学などが発展してきた。ところが、どんなにこれらの諸科学が発展してきても、人類の不満はつものばかりである。その原因は、問題の解決が新たな問題を生み出すという構図に私たちは取り込まれているからである。これは、本質的には量子力学における「観測問題」と類似した構図である。私たちは、解決すべき問題の一部であるという認識が欠けている以上、さらなる問題解決の試みには望みがない。このような現状を変革するために、「未来創成学」という新たな学術創成に着手し、国際・学際・人際的活動を推進する目的から、文部科学省予算に基づき、2015年7月に京都大学研究連携基盤・未来創成学国際研究ユニットの設置が、5年間プロジェクトとして認められた。これまで、研究者・教員を中心としてきた活動を、今後は学生、院生、研究生との協力体制をも整えながら、さらに建設的・発展的に展開していきたい。

社会構想の原理をさぐる-見田宗介を手がかりに-

われわれが世界と関わりあって生きるとき、その関わり方は、すでに歴史の刻印を帯びてしまっている。そう気付いたとき、われわれは、その刻印じたいを探究の対象とすることができる。本発表では見田宗介の思想を手がかりに、人間社会のあり方について、考えてみたい。

—社会とは、ひとが「している」ものである。

イスラームの神学論争とイスラーム哲学

「イブン=シーナーはアリストテレスの著作をもとにイスラーム哲学を完成させ、イブン=ルシュドはアリストテレスの高度な注釈を行った。彼らの著作はラテン語に翻訳され、ヨーロッパに学問の基礎を提供した。」

高校の世界史の教科書で、このような記述を見たことがある人は多いのではないのでしょうか。その一方で、アリストテレス哲学がイスラーム世界に思想上どのようなインパクトを与えたのかということは、ほとんど語られていません。9世紀にイスラーム世界が新プラトン主義的な解釈を施されたアリストテレス主義を輸入した後、その内部では独自の哲学が生まれました。その背景には、当時イスラーム世界で起こっていた社会的な変動や、それに伴って起きていた神学的な論争があります。イスラームの概要にも逐次触れつつ、神学論争やイスラーム哲学について話をしようと考えています。

曲面上の点渦力学-形と渦の不思議な相互作用-

渦の相互作用が織りなす流体運動は美しく、多くの人々がそれを理論的に理解し、その運動を予測しようと試みてきました。しかしたとえ渦の数が少なくても、それらの運動を予測することは極めて難しいです。

たとえば昨年夏に3つの台風が接近した際の運動を一つとってもその複雑さがわかります。

ではより単純に平面に渦が二つあるとき、それらはどのように動くでしょうか。また地球のように球面上にある渦と平面上にある渦とではその運動は異なるのでしょうか。球面や平面、さらに双曲面に至るまで、曲面の形が語る渦の運動を紹介します。